

配布資料一覧

次 第

出席者名簿

資料 1 平成 29 年度軽種馬経営高度化指導研修会の流れ

資料 2 軽種馬経営のモデルづくり

資料 3 軽種馬経営の経営計画

参考資料

平成 28 年度軽種馬経営状況調査 調査結果報告書

平成29年度軽種馬経営高度化指導研修（軽種馬経営技術指導者養成・技術普及）事業

第3回軽種馬経営高度化指導研修会（in しずない）

～経営分析から経営ビジョンづくりへ～

次 第

日時：平成30年1月19日

13：30～15：30

場所：日高生産連ビル第2・第3会議室

開 会

挨 拶

議 事

経営計画づくりを考えよう（軽種馬経営における計画づくりの可能性を探る）

- 1 軽種馬経営を形作ってみよう
- 2 軽種馬経営における計画づくりの可能性を考えよう
- 3 その他

閉 会

平成 29 年度軽種馬経営高度化指導研修会の流れ

【第 1～3 回の研修会の流れ】

テーマ：経営分析から経営ビジョンづくりへ

内 容：【第 1 回】経営の収益性分析を行ってみよう
(経営ビジョンを考えるための土台作り)

【第 2 回】経営ビジョンを皆で語り合おう
(どんな経営ビジョンが描けるのか、どんな経営にしていきたいのか)

【第 3 回】経営計画づくりを考えよう
(軽種馬経営における計画づくりの可能性を探る)

【第 3 回研修会の目指すところ】

第 2 回研修会に引き続きモデル的な軽種馬経営像(参加者みんながイメージする経営像)を考え、それを踏まえて、しずない農協管内で平成 28 年度から実施してきた研修会の最終回として軽種馬経営における計画づくりの可能性について語り合い、そこに助言・指導する立場としてどのように関わっていけるのかを考える。

【第 3 回研修会の流れ】**1 軽種馬経営を形作ってみよう**

第 2 回研修会の検討結果を踏まえて中央畜産会で作った経営モデルを基に内容を検討。

- (1) 経営概要(経営スタイル、頭数規模、労働力規模、利用土地面積等)
- (2) 収入内容・額
- (3) 支出内容・額
- (4) 利益額

2 軽種馬経営における計画づくりの可能性を考えよう

【参考：「どの程度の計画期間で考えてみたいか」のアンケート結果】

次年度計画づくり：4人

短期計画(3年間程度)づくり：0人

中期計画(5年間程度)づくり：2人

長期計画(6年間以上)づくり：0人

軽種馬経営のモデルづくり

1 経営者が目指す夢・目標・経営像（経営ビジョン）

【第2回軽種馬経営高度化指導研修会（inしずない）での検討結果より】

- ① 優秀な人材を従業員として確保するために牧場間の人材をシェアする経営（これにより、従業員の育成と人手不足の解消、人の効率的な活用による人件費コストの低減を図る）。
- ② 年1回1頭繁殖牝馬を海外に買い付けに行けるような経営。
- ③ 65歳以降も蓄財により生きていけるような経営。
- ④ 利益が安定的に出せる経営。
- ⑤ 経営に直接的なメリットはなくとも他産業とのコラボレーション、産駒の生産・育成以外の取り組みの導入（ニコニコ動画と連携したリアルダビスタ、観光牧場等）。

2 モデル経営のスタイル

- (1) 経営形態
 - ・軽種馬生産専業
- (2) 生産母体となる繁殖牝馬の所有形態
 - ・自己有馬
 - ・預託馬
- (3) 労働力の規模（家族・雇用）
 - ・家族従事者（2人）
 - ・常時雇用者（1人）
 - ・臨時雇用者（0人日）
- (4) 土地利用面積
 - ・20町歩（≒20ha）
- (5) 頭数規模（年間）
 - ①繁殖牝馬飼養頭数（期首）
 - ・自己有馬（10頭）
 - ・預託馬（5頭）
 全体で15頭
 - ②産駒生産頭数
 - ・自己有馬（8頭）
 - ・預託馬（4頭）
 全体で12頭
 - ③産駒販売頭数
 - ・自己有馬（8頭）

3 収入に係る前提条件

- ①産駒販売価格：販売産駒1頭当たり250万円
- ②生産者賞：年間170万円
- ③受託料収入：年間840万円

【預託料の単価】

繁殖牝馬・産駒の預託料については、

- ・基本は1歳の秋まで預かる。乳離れで戻っていく場合有り。
- ・預託料は、繁殖牝馬10万円/月。
産駒は離乳まで5万円。
離乳後10万円。その他特別料金2万円/月。

4 支出に係る前提条件

- ①種付料：繁殖牝馬（常時飼養頭数）1頭当たり75万円
- ②飼料・敷料・肥料費：繁殖牝馬1頭当たり25万円
- ③減価償却費：繁殖牝馬1頭当たり24万円
- ④雇人費：312万円（1人雇用）

5 コスト低減に向けた牧場同士の連携

コントラクター利用、作業・機械の牧場間の共有・協同化は無し。

